

1 目指す将来像

これまで見てきたように高岡市域は、越中国の政治・経済・文化の中心地であった時代が長い。市内には雨晴海岸をはじめ、大伴家持が万葉集に詠んだ景色が今も見ることができ、また、近世の寺院、歴史的な町並みや歴史的建造物が数多く残されている。また、歴史と伝統を反映した工芸技術が受け継がれ、地域固有の祭礼・年中行事が今も営まれており、「高岡らしい」風情を醸し出している。これらは、豊かな自然とともに歩んできた先人によって守り、生まれ、伝えられてきたものであり、地域の歴史を示すものである。これらを市民共有の財産として次世代に継承していく必要がある。

令和2年度（2020）に実施した「高岡市民アンケート調査」（資料編「高岡市民アンケート調査」参照）で見られるように、歴史・文化の施策に対する市民の関心は高いとは言えないが、市民一人ひとりが地域の歴史・文化を認識し、郷土に対する誇りを持って暮らしていくことが、普遍的な文化財の保護・次世代への継承につながる。このため本市では、総合計画の基本構想である「めざすべきまちの姿」を踏まえ、文化財の保存と活用を進めるに当たって、本計画の目指す将来像を次のように定める。

歴史と文化が世代を超えて受け継がれ、暮らしの中に息づくまち高岡

2 将来像を実現するための視点

文化財の保存・活用に当たっては、歴史文化基本構想「文化財保存・活用の仕組み」の考え方を踏襲し、“保存”と“活用”のどちらかに偏った取り組みではなく、相互関係を保ちながら進めていく。調査研究や整備によって価値を顕在化することで、公開・発信などまちづくりに活かし、それらによって文化財継承のための担い手確保や文化財保護のための資金確保を行っていくといった保存と活用の循環を目指す。

将来像の実現に向けて、受け継ぐべき文化財を①調べる（把握・研究等）、②守る（管理・整備・継承等）の「保存」と、それらを受け継ぎ、暮らしの中に息づかせるために多くの人に③伝える（学習・発信等）、④活かす（公開・観光等）の「活用」の取り組みを進めていく。上記の4つに「保存」と「活用」の循環に⑤支える（人材・協働等）を加え、「調べる」、「守る」、「伝える」、「活かす」、「支える」の5つの視点で進めていく。

